

パチンコホール企業の リスク管理



パチンコ人口の減少の 別の視点!!

～大きな潮流を見よう～

経営・人事・教育コンサルタント
藤崎敏郎
Fujisaki Toshio

ふじさき・としろう 大阪市立大学卒業。イトーヨーカドー入社後、関東のパチンコチェーン店にスカウトされる。経営計画室長として、店舗マニュアルの作成・営業指導・社員研修を行う。その後営業担当部長として、全店舗の指導・競合店対策・不振店対策を行う。現在は、社会保険労務士としてパチンコ企業の人事・労務システムの作成、就業規則などの作成を行う。コーチングを生かした社員教育は好評。ご連絡は携帯 090-6044-3307、またはホームページ <http://www.p-room/> よりお願いします。

パチンコ人口の減少の業界内部要因

この業界に長く携わっていた者なら誰でも感じているように、機械の問題は触れないとありません。ここ数年の激しく売上の上がる機械が主力機種という状況は新規客を取り込めず、固定客の客離れを引き起こしました。ホール現場の者なら誰でも感じているように、遊ぶお金が底をついて来店することができないというお客様が増加したことが客離れの大きな要因です。

ただ、この徴候はCR機が登場した当時から出ていました。CR機の登場、旧機種の撤去（たぬ吉、綱取物語、フィーバークインなどの名機）により、業界の先行きの不安を感じたのは私だけではなかったでしょう。CR機のヘソ払い出し個数の5個には驚愕しました。これは、売上は伸びますが、お客様を遊ばせないことになりました。ベースの低さをいかにリーチアクションでこまかくしても、楽しく遊ぶ機械ではないので長期間運用できる機械にはなりません。ただ、機械だけを原因として問題を見ると本質が見えないこともあります。個人的な意見ですが、以下いくつかの視点を述べさせていただきます。

巨人戦のテレビ視聴率の低下

全く違う業界ですが、巨人戦のテレビ視聴率の低下によりテレビ放送の中止が決まるようです。私の世代は王選手の本塁打に「喜一憂した世代です。王選手が世界最高数のホームランを打ったときの日本全国の熱狂は、今のワールドカップに日本代表が出場するのと同じくらいすごい状況でした。当時は、プロ野球放送の視聴

率の低下がここまでになるとは想像もつきませんでした。これは内部努力だけで改善できるでしょうか。もっと大きな要因があると思われれます。団塊の世代を中心とする50歳代に巨人ファンが多かったという仮定をする。パチンコにも同じような要因が見つけれられるのではないのでしょうか。

失業率の数字より

私はハローワーク主催の就職支援講座の講師をすることがあります。失業者を対象に履歴書の書き方や面接の対応の仕方を教える講座です。その受講者の顔ぶれを見ると、パチンコホールに勤務していたときに見た客層と重なっています。年齢は50歳台を中心としています。おそらく、リストラや工場閉鎖のために再就職先を捜しているのでしょう。昔は無職だから時間があるので、パチンコで遊ぶ人もいたようです。でも、今の機械はお金を使いすぎるので、失業手当（今は基本手当と称します）でもらった分は3回程度パチンコで遊ぶと全額なくなってしまうでしょう。後の生活費のことを考えると到底パチンコはできない訳です。

具体的な数字では平成7年では約200万人だった完全失業者が、平成17年では約300万人と1.5倍となっています。約100万人もの失業者の増加は各種の業種に影響を与えていることは間違いないでしょう。中には経済状況を悲観して自殺する人もいます。年間3万人もの自殺者がいます。中高年の自殺者はその半数をしめています。健康と経済状況が原因です。交通事故で死亡する人は1万人以下なので、比較するといかに大きな数字かが分かるでしょう。

ところで、失業率を年代別で見ると一番高いのは15歳以下で、企業に残っている正社員の労働強化が進んでいるからです。

ところで、私はパチンコとは全く関係ない業界でも仕事をしていますが、パチンコがなくても全然困らない人たちが多いことを感じています。一般の人たちはパチンコを敬遠しているか、無いほうが良いと感じているのではないかと思うこともあります。個別店舗の生き残りのポイントが、存在価値と言えるのではないのでしょうか。そこに店舗があることによって満足していただけのお客様をどれだけ定着させているかが問われることになってきます。

私は6歳の頃からパチンコホールで父親と一緒に遊んでいました。小学生のときの私のおもちゃは中古のパチンコ機械でした。手打ちのチューリップの機械のチンジャラという音を楽しんで過ごしました。それが縁となり、パチンコ業界に長年勤務してきました。だから、この業界は永続して欲しいですし、誠実に毎日働いているパチンコ業界関係者の皆さんも幸せになって欲しいと思っています。

福岡で勉強会

福岡県で9月26日に勉強会を開催することになりました。初めての試みですが、福岡県は私のふるさとなのでホームグラウンドのような感じがしています。そこにパチンコホール関係者が集まって、いろいろなることをお話しする機会を持ちたいと思っています。当日は、勉強会なので無料で開催したいと思っています。できるだけ多くの方にお会いしたいと思っています。詳しくはホームページに掲載してありますので「見下さ〜」。もしくは携帯電話にお電話下さい。

〜19歳です。次が20歳〜24歳、その次が25歳〜29歳です。意外と思われるかもしれませんが、若い世代に多いのです。二トの問題などもはや一部だけの問題ではなく、国の経済を左右する問題だという数字です。パチンコの若い人の新規参加人口が減少しているのは、若年者の失業率も原因の一つです。

正社員比率・パート比率

若い人の失業率が高い原因の一つとして、フリーターの形態で働く人が多いということもあります。フリーターはアルバイト契約が切れると無職になる可能性が高いです。正社員で勤務していると契約切れとなることはありません。フリーター、失業者、フリーター、失業者、フリーターの繰り返しで正社員にならないで30歳半ばを過ぎると、正社員にはなることは無理でしょう。企業側が敬遠するからです。だから、低収入のままなので生活するのがやっとでしょう。この人たちはパチンコをする余裕は全くありません。

また、パチンコ人口の減少はアルバイト・パートでしか勤務できない雇用環境も関係しています。パチンコホールも今ではアルバイトの採用は当然のように行なっています。20年前はありえないことと言って良かったでしょう。パチンコホールにアルバイトでも勤務することは家族問題になった時代でした。でも、今では正社員数よりアルバイト数のほうが多くなっている店舗が増えています。

パチンコホールに限らず、日本の企業は社員のリスト化とパート化をここ10年で一気に加速させました。全体では10年前と比べて、アルバイト・パート比率の企業平均が14%から25%に増加しています。パチンコホールに

限定するとさらに増加しているでしょう。

ここで二つのパチンコ客数の減少の要因を見ることが出来ます。一つは日本全体のアルバイト・パート比率の増加ということです。正社員でなくアルバイト・パート化にする企業側のメリットは賃金を安くすることができるといことです。つまり、アルバイト・パートは低賃金で使用されるということです。つまり、パチンコで遊ぶお金は無い層と言えるでしょう。ボーナスも当然に支給されませんが、アルバイトにボーナスを支給するホールもありますが、パチンコで遊べるような金額ではないでしょう。

もう一つの原因はパチンコホールも正社員からアルバイトに交代が進んだので、パチンコホール正社員でパチンコで遊ぶ層が減少したことです。私の体験では15年ほど昔は店舗に正社員が20名いると約半数は、給料のほぼ8割をパチンコに使っていました。パチンコホールの2階にある寮に住み込みで、食事も3食付いていたので生活に困ることはありませんでした。今では、このような社員を見ることはなくなりました。社員の高学歴化と企業努力の成果ですが、真面目で経済観念のしっかりしている社員が増えてきました。このような社員は、お金を使い過ぎるパチンコを敬遠することになります。これもパチンコ遊技人口の大きな要因でしょう。

まとめ

全体的にはパチンコ人口が増える可能性は少ないでしょう。これは、前述の労働状況から極めて難しいという判断からです。また、一般企業で正社員として働いている30歳台や40歳代は長時間勤務を強いられているので、パチンコで遊ぶ余裕時間がありません。アルバイト・パ